

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

主任教授・男性

**思う

- ・ flexible な働き方が可能となる。
- ・ ICT で行える業務の部分的効率化の貢献が期待できる。
- ・ ICT は効率がよく便利であるから。
- ・ ICT をうまく活用することで、業務の効率化が進むことが期待できるため。
- ・ ICT 化によって時間の節約にはなと思う。
- ・ ICT 機器、ソフトの利便性が格段に向上し、業務を遂行しやすくなった。
- ・ アンドロイドが代わりに会議に出てくれたりするような時代になることを祈っています
- ・ うまく活用すれば
- ・ オンラインで済ませられる仕事が増えると時間の使い方が変わる
- ・ オンライン会議は効率化に寄与している
- ・ オンライン診療など
- ・ これまでの回答と同様、off the job training により実際の働く時間を短くすることができるであろう。
- ・ スケジュール作成の効率化
- ・ そう思うが、それ良いとは思わない。
- ・ それが目的だから。そうでなければ意味がない。
- ・ データ処理の負担が減ると思われるため
- ・ 移動時間の削減・有効利用、情報のオンデマンド取得等。ただし質の維持は心配。
- ・ 移動時間の短縮や、無駄な会合の整理など
- ・ 医師であっても、一部の仕事は在宅で行える
- ・ 運用次第では可能性がある。
- ・ 家でも仕事できる
- ・ 家庭で仕事ができるようになる。
- ・ 家庭に滞在する時間が増えた。
- ・ 科によって異なると思うが、不要な仕事が減る可能性はある
- ・ 改革は進むと思いますが悪い方向にいかなければいいなと思います。
- ・ 改革推進に最も必要な条件の 1 つ
- ・ 活用すると効率化が進む可能性があるから
- ・ 業務の効率化が進む。
- ・ 業務効率化に期待しての回答です。
- ・ 勤務時間削減、業務効率化には貢献すると考えるため(質は無視して)。
- ・ 近い将来、働き方の変革は確実に起こると考える。
- ・ 形の上ではすすむ
- ・ 決定的にはならないが、会議の効率化や在宅から遠隔診療などはよい効果をすでに出している。
- ・ 効率化により余暇が生まれる。
- ・ 効率化は業務時間の短縮には必須と考えます。
- ・ 効率的な仕事配分に寄与すると予想されるため。
- ・ 効率的な時間の使い方が可能。
- ・ 効率的になる点が増えるのではないか
- ・ 号令だけでは実現しない。行政による社会基盤の整備が必須。個人の努力では難しい。
- ・ 在宅業務の増加と、会議による出張の減少
- ・ 在宅勤務など働き方の多様性
- ・ 作業効率が高まることにより、効率よい働き方が推進される
- ・ 作業効率は上がると考えるため
- ・ 仕事の効率化、ただし、導入時、慣れるまでは返って時間がかかるかも。
- ・ 使い方次第で進むと思われる。
- ・ 事務作業時間が減れば、本来の業務時間の確保がしやすくなると思われる。
- ・ 時間の自由度が増える。
- ・ 時間の節約、発信場所が限定されない。
- ・ 時間効率があがれば当然時間外勤務は減少するので

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 時間節約ができることになった利点は大きく、日々の業務も効率的にできる利点も大きいと感じている。時間の利用の効率化は働き方改革の大きな要素と考える。
- ・ 時間調整が効率的になるため。
- ・ 時間的短縮を期待
- ・ 時間的余裕が生まれるため
- ・ 自宅でも従事できる場合がある。
- ・ 出張にかかる時間が減るから
- ・ 省力化や時間節約が進むので。
- ・ 場所を選ばないでできる業務が増えるから。
- ・ 情報技術の活用はあらゆる局面での改革に通じる
- ・ 情報伝達や効率化には役立つ
- ・ 職場にいなくても仕事ができる。
- ・ 進んでもらわなければ困る
- ・ 人が行っていたものを機械などが代用できる、時間の有効活用が可能となるため。
- ・ 人手不足は深刻であり、ワークシェアするにも人材が見つからない場合、ICT 化しか解決策はない。
- ・ 全国すべての病院のシステムの統一化されればの限定条件
- ・ 多少は効率が上がると思うから。
- ・ 多少は時間短縮になるのでは？
- ・ 対面でないといけない診療部分は変わらないが、それ以外が効率的になると期待
- ・ 大きな推進力になるかは疑問が残るものの、一定の効果はあると考える。
- ・ 男性の家事分担が増えるから。
- ・ 働き方改革は進むと思うが、仕事の質がどれだけ保たれるかは別問題と思う。
- ・ 必要に応じ、在宅勤務ができること
- ・ 無駄な学会や会議が減るから
- ・ 無駄な業務を実際に減らせれば働き方改革に貢献できると考える。
- ・ 無駄な作業が減る可能性がある。
- ・ 無駄な時間が減り、効率的に働くことができるため。
- ・ 有効に活用できる時間を増やすことができる
- ・ 連絡しやすい
- ・ 労働の効率化
- ・ 労働時間の把握や表面的には削減は達成されると思う。

**思わない

- ・ ICTと働き方改革は別のことだから
- ・ ICT 化がブルシット・ジョブの削減につながっていないから。
- ・ ICT 化が解決策とは思えない
- ・ ICT 化が進めば働き方改革が進む科学的根拠を問う。
- ・ ICT 化で労働時間は減らない。
- ・ ICT 化により新たな仕事生まれること、空いた時間に他の仕事が入ることが想定されるから
- ・ ICT 化による労働時間削減効果は薄いため、結果として、労働時間は変わらないと思うから。
- ・ ICT化の推進により大学の管理運営は効率的になったが、それ以外良いことはない。そもそも働き方改革はフレックスタイム制の利点を毀損する悪法で、研究者にメリットはなく、進める必要はない。
- ・ ICT 化は各自任せでバラつきがあり、矛盾はどこかで誰かが無理している
- ・ ICT 化をしても、個々の価値観が変わるわけでは無いので、働き方改革には影響しない。働き方は個々が決めていくべき事であり、統一すべきではない。個々の価値観を尊重する事が大事と言う。
- ・ output がはっきりしない
- ・ PC での作業が増えるので
- ・ ある程度、情報伝達等の部分は効率化するでしょう。
- ・ 意識の変化が必要
- ・ 医師のすべき診療は患者がいる限り変わらないため。
- ・ 医療は ICT だけで行っわけではないので、単純に働き方が変わるとは思いません。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 医療は基本的に「現業」だから
- ・ 医療界にはびこる「発生源入力」の考えをなくさない限り医師の入力の労力が増えるだけである。
- ・ 管理業務が増えるため。
- ・ 関係なし。
- ・ 基本的に医師の仕事を減らす方向の考え方が欠落している。確認や入力含め医師が行う前提であるため。
- ・ 逆説的だが非観血的医療分野で ICT 化できる分野がどんどん進むことにより、若者がその分野に偏在する。産婦人科ならピルの販売業者のようなところは人気になる。⇒産婦人科でも分娩や手術のような ICT 化できない、かつリスクの高い分野に行く人が減る⇒真に働く人が減り、結局過重労働になる。と、考えるので。まじめに体を使って医療をする観血的治療分野は一旦崩壊する。と、予測します。
- ・ 勤務時間内での ICT 化となっていない実情があり、かえって仕事量が増えている
- ・ 研修などが増えるため働き方改革にはつながらない印象があります。
- ・ 現場の時間外診療時間軽減にはあまり繋がらないと感じる
- ・ 現状の ICT 化のレベルでは難しく、もっと大きな進歩が必要であろう
- ・ 効率化はされても、仕事量は減らないため。
- ・ 在宅勤務を認めてくれれば、有意義な働き方改革になると思うが、現実にはなっていないため、時間外労働を在宅でして、その時間は計上されていない
- ・ 仕事量が減るわけではないため。
- ・ 実際変わっていないから
- ・ 実臨床にかけける時間が長いほど、多くの経験ができる。研修医の医師力レベルが徐々に下がっている。
- ・ 充実感が損なわれる
- ・ 職場に職員を休ませる風土がない。雇用主側には、働き方改革に対応するような人員増加をする意思がないから。
- ・ 大学病院の人員を増やさない限り、改善しない
- ・ 働き方改革に ICT 化は必須であるが、働き方改革は基本的には別の問題だと思う。
- ・ 働き方改革は医師の基本給をまず増加させてから行うべき。医師数が足りないまま、必要な病院に必要な医師数の確保ができていない時点で、何もわかっていない政府のおしつけで開始したことによって上手く行かない理由があって、ICT など小手先の変化で対応できるものではない。行政は何も実態を把握しようとしていない。絶対に上手く行かない。
- ・ 別次元の問題と思う
- ・ 両者は合理的な関係がないため
- ・ 労働時間は、短くなるかもしれないが、その分失うものも大きく、改革と言って良いのか疑問である。

**わからない

- ・ ICT がどれくらい関与できるか未知数
- ・ ICT 化で逆に増える仕事もあると思う
- ・ ICT 化の内容によりけり
- ・ ICT 化は、何を、どこまで含むのか明記していないので、答えることができません。
- ・ オンラインでできない業務が多いから。
- ・ これもプラットフォームの出来に大きく左右されると思います。
- ・ システム構築の質によって、結果が大幅に変わると思います。
- ・ バリエーションが多い、不確定要素
- ・ リモート業務が労働時間に含まれるのかが不透明である
- ・ 意識の変革が進むかどうか次第。
- ・ 医学部生を増やしても、外科系、小児科、産婦人科に進む後期研修医が減る一方の状況を改善しなければ、働き方改革も ICT 化推進も形骸化してしまう。診療科のバランスを壊した初期研修医制度を見直すべきである。
- ・ 医療にはあまり影響しないと思う。
- ・ 医療現場では未知数なことが多い
- ・ 会議や出張の負担は軽減されるが、その他は？である
- ・ 改善される面もあるが、上述のデメリットもある。
- ・ 既存の労働の効率化が進んでも、ヒトは新たな競争・差別化の課題を創り出し、浮いた時間を使って切磋琢磨し始めるだろうから。
- ・ 期待はしているが、費用もかかると思われ正直進むかどうかわからない。
- ・ 業務を担ってくれれば改善するかもしれない存在意義がなくなる

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・業務量の総量が減るかはわからない。
- ・結局機器を操るのは人なので、いかに省略、簡略化できるかが問題である
- ・現時点ではわからない
- ・今回のアンケートの趣旨とずれるが、臨床系の大学教員の研究時間をどうするかで大きく変わる。研究に割く時間は減ることはないし、資金獲得のためこれまで以上に高い研究実績を求められる。働き方改革の推進と競争的研究資金獲得の推進は矛盾している。「頑張った人だけ研究資金をあげよ」というのは結局は休まず働け、といっているようなものだ。研究は自己研鑽と名のもとに勤務時間から除外され、みかけの働き方改革だけが進む。ICT 化はもちろん必要だが、それだけでは働き方改革は進まない。
- ・今後の展開によると思われる。
- ・仕事は増え、人は増えず、ICT 化のみ進んでもおそらく働き方改革は難しい。
- ・私の専門分野では、ICT 化で働き方改革が大きく進むとは思えない。
- ・時間調整はできるが直接あつて色々なことを情報交換することが懸念
- ・自身には影響がないため。
- ・実効性が不明
- ・職種によるのでは。
- ・正直、わからない。
- ・短期的にみれば、ひずみがどこかにくる、長期的には進むかもしれない。
- ・働き方改革というより「変革」にはなるかと思います。
- ・未知数
- ・様々な恩恵は受けると思うが、仕事の特性上、実際に診る事が多いので、分かりません。
- ・要因が多いから
- ・良い点、悪い点 両方ある
- ・良くなった点と悪くなった点の両方があり、一概には判定困難だと思います。
- ・労働者の意識への効果が不明

主任教授・女性

**思う

- ・ICT をうまく活用できるようになると進むと思う。
- ・オンライン会議が増えることで、移動時間が少なくなる
- ・デバイスさえあれば機会は均等だから。
- ・どこにいても、こなせる仕事ならば、移動しなくても、効率よくなされるから。
- ・移動時間を節約できるため
- ・会議や学会参加のための移動時間がなくなることで浮いた時間を休養にあてることができる。
- ・効率は良くなると思うから
- ・効率化が推進できる。
- ・作業の効率化ができるから。
- ・作業効率が上がる。
- ・人工頭脳も発達し、医師や教員は必要なくなる時代も到来するかもしれません。

**わからない

- ・何をするにも遅い
- ・現状ではわからないため
- ・不十分な ICT 化はかえって業務を増やすため

教授(主任以外)・男性

**思う

- ・オンコール業務の軽減の可能性、シフト制の向上など
- ・オンラインによる行為を業務とみなすならとう条件付き
- ・タイムパフォーマンスを良くしないと働き方改革は進まない。
- ・ただ、働き方改革は、雇用を増大させ経費的負担が増えるという正直な見解を見せるべき
- ・ただし、現状は中途半端だと思う。

46. ICT化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・テレワーク推進は重要
- ・リモートですむ
- ・医師が行なっていた仕事を効率化することで改革は進むかと
- ・育児などの点では利点は多いと思います。
- ・一部の仕事(上述した学外の仕事など)については、進みうると思います。
- ・業務の効率化が進めば男性も休暇を取りやすくなる
- ・業務の効率化につながるから
- ・勤務状況が明確になる可能性があるから
- ・空間的・時間的な障害なく仕事に参加できる
- ・効率だけはよくなる
- ・効率化が期待できる
- ・在宅勤務の在り方による労働環境の変化に期待したい。
- ・作業時間の短縮
- ・作業時間短縮は労働時間の軽減に少しは寄与するが、現状では働き方改革は、明らかにチーム医療を最たるものとして、業務の質の低下にはつながる。
- ・仕事の効率化はできると考える
- ・仕事の自由度が増すから
- ・仕事を時間内に終わらせるための一つの手段になり得るから。
- ・仕事時間の短縮につながる。
- ・時間が有効につかえる(移動時間の短縮)
- ・時間の効率的な使い方は可能
- ・時間の有効活用が可能になる可能性があるため
- ・時間を効率的に使えるので、働き方が変わる。
- ・時間使用の効率化によって、非効率的な労働時間を減少できるから
- ・手間の省力化、迅速化が期待できることから自由に時間の確保に繋がるので。
- ・診療における遠隔医療などは有用である。
- ・対面での診療、教育が減少するのであれば、通勤時間は減少できる。
- ・働く場所を縛られなくなれば、もう少し効率的な働き方はできるようになると思われ、また、管理業務を効率化すれば、雑用が減ると思われるから。
- ・非効率な移動や紙資料などの資源節約が進む。
- ・不要な業務が選別できる(見える化が進むため)
- ・部分的に進むのではないかと思います。
- ・無駄が減る可能性があるから
- ・無駄な時間を省く事ができる
- ・様々な勤務形態が可能になる
- ・労働時間は短縮すると思う。ただしそれが我が国の医学・医療の発展につながるかと言えば、逆の作用をもたらす可能性は否定できない。

**思わない

- ・ICTで効率化したとしても、働き方の本質は変わらないため
- ・ICT化に関わらない業務の負荷は依然として残るから
- ・ICT化の推進と働き方改革は別の問題
- ・ICT化を推進しても、それ自身が直接診療に寄与することはないので、働き方に関し、なにも改革のしようが無い。
- ・on lineで連絡を取り合うことでかえって業務が増えた。またmailのやり取りという公私が入り混じった行為の時間が増え、これが必ずしも勤務時間に含まれるわけではないので、実質的には業務負担は増えたと感じる。
- ・あまり期待はできないが、業務が減る可能性もあるかとは思ふ。
- ・その分だけ仕事が増えるから。
- ・そもそも医師は高度な知識や技術を持った専門職であり、人命を預かるという重要な使命がある。このような専門家の働きぶりは芸術家のそれに似ており、ICTなどの管理システムにはそぐわない。創作意欲を管理すれば芸術が死んでしまうように、医師の労働意欲を負の方向に管理すれば、医学や医療の質の低下は免れないと考えている。
- ・それよりも医療スタッフの増員が必要

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 闇残業が増えるだけで結局変わりません
- ・ 関係ない
- ・ 業務は増えるばかりで際限が無いため。
- ・ 均てん化に時間がかかる
- ・ 結局、システムの入力をしなければならない。
- ・ 結局は仕事をする者に皺寄せがくる
- ・ 効率はよくなるが、限定的
- ・ 仕事がハードな診療科はよりハードになるでしょう。
- ・ 仕組みは利便性があるのだろうが、結局は負担を誰かが担わないといけない業種であり、それを特定の診療科、特定の病院、一部の働ける人に押し付けており、そこにインセンティブななければ持続可能なシステムにならないと考える。形式だけ整えても、そこで働く中身の部分を何とか改善しなければ現状が変わっていくとはとても思えず、むしろ悪化していくと考える。どうか大変な苦勞をしている現場の人間が報われる形であってほしく、悪平等な形になってほしくない。
- ・ 自宅など勤務先以外で業務を行う時間が増えてしまいそう。テレワークを認めてほしい。
- ・ 職場が ICT 化に対応していないと意味がない。
- ・ 診療部門に関しては ICT 化は、必ずしも追い風になっていないから。
- ・ 進むとは思えない
- ・ 通常業務に加え手間がかかる
- ・ 働き手の意識、具体的業務内容によって大差が出るから。
- ・ 表面状の現場時間が減っても、拘束時間が増やされる。

**わからない

- ・ ICT の影響は限定的であり、そのみで議論すべきではない
- ・ ICT 化しても、やるべきことは山のようにある
- ・ ICT 化で起こることが見通せない。
- ・ そんなに上手く ICT 化が進むとは思えないです
- ・ どうなるかは、やってみないとわかりません。
- ・ どちらともいえない。悪くはないと思う。
- ・ どのような面を ICT 化するかによる
- ・ ほんの一部にしか貢献しない
- ・ やり方次第
- ・ 移動の負担は減るものの、対面の良さを失う部分もあると思う。
- ・ 院内の ICT はまだ進んでいないので不明。
- ・ 逆ではないか。働き方改革を進めるために、ICT 化が求められるのであって、ICT 化の推進が働き方改革を進めるのではない。
- ・ 個人の状況によって異なる。
- ・ 個人の能力によるから
- ・ 国や各施設のやる気次第と思う。
- ・ 自宅への仕事持ち帰りが抜け穴になる
- ・ 実際にやってみないとわからない
- ・ 進むと思いたいが、業務内容からはそれなりの工夫が必要と感じます。
- ・ 進んでほしいとは思いますが。
- ・ 人のよって条件が全く異なるため
- ・ 先のことはわかりません。
- ・ 想像がつかない
- ・ 当人の考え方による部分が大きいと思う
- ・ 良い点と悪い点とが混在する

教授(主任以外)・女性

**思う

- ・ ICT を使った業務が実際に増えている。
- ・ どこからでもネット回線があれば参加可能になるため、使い方次第。
- ・ より管理しやすくなる

46. ICT化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・移動が減るから。
- ・効率化が進むため。
- ・仕事を時間内に終わらせて、自宅に帰ってから講演などオンライン視聴することにより、仕事と家事・育児との両立および自分の知識向上を達成することができる。
- ・時間短縮による
- ・出勤時間の節約
- ・有効活用すれば、多くの勤労者の負担軽減が可能だと思う。

**思わない

- ・効率を上げつつ、AIにしてもらえる業務を明確にした方がよい。
- ・働き方改革は多様性を取り入れないとツールだけでは進まない

**わからない

- ・ICT化だけではだめで、それをサポートする医師事務が増えないと医師のゆとり時間は増えない。
- ・ICT化によって効率化する面と返って手間が増える面と両方あると思う。
- ・これ以上どのようなICT化があるのか思いつかないのでわからない。

准教授・男性

**思う

- ・ICTによりいつでもどこでも対応できるシステムができると改革が進むと思われる
- ・ICT化での業務の効率化はとても良い。ただし、高い質の診療を保持するために頑張る勤務医の待遇をよくする工夫をセツトで進めなければ、非効率でも頑張らなければならない部署の医師はどうすればよいのでしょうか？
- ・ICT化で時間節約や効率化が進むため
- ・ICT化により働き方が改善されると思う為
- ・ただし、ICTのみでは解決できないこともあると考えます。
- ・どこからでも会議に出席できる
- ・移動などの時間が削減できるため。
- ・移動時間において圧倒的な優位性がある
- ・移動時間の減少、家庭内で仕事をする事が可能な環境は改革の大きな要素と考える
- ・医療の質を落とさず、ICTを利用できるか否かが重要
- ・一体で進めないと働き方改革は進まない気がします
- ・家で仕事、ワーケーションの利用などは本当に良いと思う。一方で、外科手術やら外来診療など根幹の部分では一切かわらず、しんどい思いをする人が一定数ずっと続けると思う。
- ・家庭からも会議や研究会・学会に参加可能となる
- ・会議、講義、講演会は家から参加できる
- ・会議等に自宅から参加しやすくなる。
- ・学会などこれまでオンサイトで参加していたものが、オンラインで参加可能で、移動の時間などが省略できるようになったため
- ・簡素化が進むから
- ・業務効率化(無駄を減らせられれば)により、労働時間が今より減っても、全ての領域(診療、研究、教育、管理)で恩恵があると思います。ただし、行う内容は大きく異なることが予想されます。それを多くの医療者が受け入れられるよう外部環境の整備も同時に必要なのではないのでしょうか？
- ・勤務事案削減につながる
- ・勤務時間の管理が行いやすくなる
- ・効率化される可能性。
- ・効率化による時短が期待できる
- ・最初は手探りですが、その中でより良い方法が見いだせると思います。
- ・在宅勤務の比率を増やせる。
- ・雑務の負担軽減につながる可能性があるため
- ・雑用が減れば医師は早く帰宅できる。
- ・仕事していなくてもしていることになり、”やってる感”は演出できるから
- ・子育てをしながら行う業務を管理者側が設定する余地が生まれたため。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・時代の流れとして
- ・自己研鑽扱いにすることができる
- ・自宅からの学会や会議への参加、移動時間の削減など効率化が促進されるため
- ・自宅でできる仕事も多数あるため
- ・実感は無いが、今後に対する期待を込めて肯定的なコメントにした
- ・実際に導入できれば
- ・少なくとも業務時間は減少するのではないのでしょうか
- ・職種によっては在宅勤務が可能である。
- ・人によっては在宅での業務が可能になると思うから
- ・多少の影響力はあるだろう
- ・多様な働き方が可能になる。
- ・単純作業が省略されるから
- ・働き方改革に大きく貢献する技術が ICT、テレワーク等の積極的活用だと思う。
- ・働き方改革は進むと思うが、そのことにより、恩恵を受ける人と、むしろきつくなる人の分断が進む。少なくとも、ICT 化により勤務者の負担が減る様にならないと、良くはならない。現在の ICT 化は(少なくとも医療、教育、研究に関する限り、)勤務者の負担を減らす役には立っていない。
- ・働くための手続きが物理的、時間的に遠隔で行えれば、プライベートの時間を増やせるから。
- ・病院外ですませられる仕事が明確になる
- ・負担軽減には関与する。
- ・無駄な時間が削減できる。
- ・無駄な時間が少なくなると思われる。
- ・無駄を省くことが出来れば
- ・有効な ICT 化がなされることが前提です。
- ・融通性が高くなる
- ・利便性が向上するため
- ・良し悪しはあるが、多少の改革は期待できるかもしれない。

**思わない

- ・ICT ではない。意識が重要である。
- ・ICT 化だけではなく、他の要因も必要に感じる。
- ・ICT 化により、働き方改革が進む理由を教えてください。
- ・ICT 化に対する過剰なリスクを考慮するあまりアナログを併用した方法が多々見受けられ、余計に手間がかかっているため
- ・ICT化の推進により既存の勤務時間削減や業務効率化が達成できたとしても、別のタスクを割り当てられる可能性が高いから
- ・ICT 化の推進のみで業務量が減少するとは思えず、働き方改革にはつながらないと思います。
- ・ICT 化はいろいろな業務をスキップするような効果はあるが、必要な業務の時間は変わらない。むしろいろいろな業務を整理するないし自動化できる業務を自動化した方が効果が高いと考えている。
- ・ICT 化も結構だが、その前に働き方改革を導入することによって発生する中堅医師へのしわ寄せをいかに減らすかを考えてほしいものだ。
- ・Web で学会・研究会・会議に参加する時間は、休日・夜間となっており、働き方改革からは逆行している現状が既にある。
- ・オンオフがはっきりしなくなる
- ・この国の対策は常に絵に描いた餅
- ・テクノロジーが追い付いていないように思います。
- ・もう少し推進されないと見えてこない
- ・やるべき業務が増えるため
- ・以前のコロナ患者報告入力のような業務が必須とされれば、システムの確立が必要。
- ・一つの局面であり全体としては重要項目ではない。
- ・家でも働かされるようになりました
- ・患者を診て学生の講義の準備をして学会発表もするという過重労働には変わらないから
- ・感想のため、特に根拠は今のところない 推進してみないとわからない
- ・関係があるとは思えない
- ・教育、研究、診療の仕事量に比して、人員が圧倒的に足りないので、それを解決しないと、ただ強制的に残業をさせないだけ

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

になると思います。

- ・業務が効率化されても勤務時間に変化がなければ改革とは別の話だ
- ・業務の中心である診療は ICT 化でも患者数等は変わらないため。
- ・具体案が見えない
- ・経済的な補償がないから
- ・結局、人が操作することになるから
- ・結局 web で働いているから。
- ・現在の管理職に当たる 50～60 代が使いこなせないから
- ・公私の私の領域に業務がしのび込んでくるから
- ・今のレベルの ICT 化では進まない
- ・在宅勤務など増える可能性はある
- ・仕事量は変わらず拘束される時間は変わらない
- ・四六時中メールやラインを送り付けられ、それに対応することを求める人間がいるから。
- ・実際の業務量は変わらないため、業務をする場所が変わるだけだから
- ・上手に使えるかどうかはその人次第。そして、できるひとは ICT 化を先にやっている。
- ・世代が変わらないと無理です
- ・多くの医師が給料で職場を決めるようになると予想するから。
- ・大学病院医師の自宅でのリモートワーク、事務的業務、教育業務、研究業務などの業務としての従事システムの構築などが進まないし難しいでしょう。結局職場に出勤しての仕事となるが給与には反映させていただけません(給与として認めるとの明言はありません)。
- ・直接でないといけない仕事が多いし、ICT では代用できない部分が大事な部分と思う
- ・働き方には環境もあるだろうし制度もあるので、個人の意識改革ができるかどうかにかかっているように思う。
- ・働き方改革の目的が理解できていない
- ・別の仕事は増える
- ・別の論点であるから
- ・労働時間が減らない。

**わからない

- ・ICT 化ですべてが解決するとは思えない
- ・ICT 化とは何か具体的に見えない
- ・ICT 化とは直接は結びつかず、社会全体の意識改革の影響の方が大きいから
- ・ICT 化により業務毎の共有化や効率化は図れるが、人の少ない部署では 1 人あたりの負荷が大きくなるので、なんともいえない。
- ・ICT 化のための労働が増える可能性もあるため。
- ・ICT 化の推進が、具体的に何を指すのか不明である。
- ・ICT 化の不備がなくなれば、効率性が増し働き方改革推進に役立つと推察されます。
- ・ICT 化を推進しても手作業を伴う仕事が減るわけではない
- ・それを使いこなす人と、システム先行になっている要素もありそうなので、まだ判断できない。
- ・ちょっとぼんやりした答えしかできないアンケートでしたが、個人的には ICT 化の推進はいいことだと思います。小さい子供がいれば学会参加できなくてもセミナーなどで知識を得ることができます。しかしそれを運用する側が旧態依然の考え方で結局業務が増えるだけの可能性があります。
- ・どちらでも良い。そもそも何か自分の状況が改善するものとは思えないので
- ・まずは学会が多すぎます。制限すべきです。次にオンライン学会に十分に参加できるように休みがとれる環境が必要だと思います。最後に業務が多すぎてオンライン学会に参加できないことが多々あります。一方で出張しなくていいので、子供や患者さんと接する時間が多くなり、これはよいことと思います。
- ・もう少し先の話
- ・やってみないとわからない
- ・ユーザーフレンドリーなシステムが出来れば可能は可能と思われるが、身近にそのような成功事例がなくよく分からない
- ・悪い方向に進くこともあるのでは。
- ・何に対してメリットか分からない
- ・画像診断分野は、進んだらしい。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・改革は進むと思うが、新しいことが生まれればその業務遂行のためのあらたな課題や調査が出てきて、それが結果として働き方のいい方向に直結するような労働環境を想像できないため。
- ・患者を相手にしているため働き方は変わっていない
- ・管理は仕事が簡便になり、労働者のタスクが増えている。現場の悲鳴を毎日聞いている。
- ・勤務時間自体の短縮は部分的には可能だが、不可能な部分も多い
- ・結局仕事量が減らない限り、同じだと思う。
- ・効率化が進んでもそれが働き方の質の改善につながるのかわからない
- ・効率化を意識するあまり、会議やミーティングは増えている。
- ・仕事の量は減らないので
- ・実際に使ってみなければわからない。
- ・職場での仕事は減ったが、職場以外での仕事が増えた。
- ・診療の要請が減るわけではなく、むしろ増えているため
- ・診療業務にプラスになるかどうかはわからない。
- ・進むと思って欲しいのですが、現状ではわかりません
- ・人間が ICT に慣れるだけのような気がする。
- ・全体の業務内容が減らないため
- ・働き方改革自体が形式的なものであり、かえって事務仕事(勤怠記録等)が増えている。
- ・良い面と悪い面があるため

准教授・女性

**思う

- ・ICT により時間の確保が可能になると思います。
- ・コロナで実際にオンライン診療やリモートワークが進んだため。
- ・移動に要する時間が減るから。
- ・移動時間を節約できるため。
- ・遠隔から業務が可能であるので
- ・会議にも自宅から出席できる
- ・現時点は思いつかないが、やりにくさを感じているところを ICT で改善できるはず。ただ初期は単純に行いすぎて思い及ばない点がありそう。
- ・今まで遠方や家庭の事情で会議に参加できなかった人も仕事に参加できるようになるため。
- ・在宅勤務を推進することで働き方改革が進むと思う。
- ・時間の問題には貢献すると考えるから
- ・時間削減ができそう
- ・自宅での勤務など可能になるから
- ・自宅にいられる時間が増えるため
- ・場所を限定せずに業務が可能になること。
- ・新しい技術をどんどん導入して仕事環境の効率化を図り、家庭に力を注げるようにしてほしい。
- ・働く時間の短縮とは関係なく、働きやすいと感じる人が増えると思うから。
- ・煩雑な書類仕事が減る、といいな
- ・有効利用できれば進むはず

**思わない

- ・「自己犠牲をして患者のために働くことこそ善、研究成果を出すことこそ正義」といった考えを変えることが医師の働き方改革のためには何よりも必要なことと思うが、それと ICT 化は無関係だから
- ・家で仕事が増えて、見えない労働が増えるだけ
- ・休日なども会議などに参加できる
- ・在宅ワークが可能になることで、カウントされない時間外業務が増加する。
- ・中途半端な ICT のために、そのしわ寄せは一部の人(中間管理職)に集まる。若手に負荷をかけないようにして、子どものいる人の業務量を減らし、業務量は同じかそれ以上。ICT のセットアップは誰がするのか？そのかけ方が中途半端で何の役にも立たない。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

**わからない

- ・ ICT 活用で、距離的な問題は解決できるが、個人の時間を増やせる訳ではないから
- ・ 業務の根本から効率化すべき
- ・ 具体的なイメージが未だもてない。
- ・ 仕事が減る気があまりしない
- ・ 診療行為に ICT 化を反映するのは難しいと予想されるので。
- ・ 電子カルテを外で見たら、結局は外で働いている？それをどうカウントするのか？
- ・ 働き手の考え方が変わらないといけないと思う。下の先生に働き方改革を進めようとする、残った仕事のしわ寄せが上司にのしかかるので。勤務環境全体としてよい方法を見出す必要がある。
- ・ 働き方の多様性はできるかもしれない。
- ・ 働く形は変わると思うがそれが改革なのか衰退なのかはわからない
- ・ 別の問題と感じる

准教授・回答しない

**思う

- ・ 時間削減、勤務場所が柔軟に選択できる

**わからない

- ・ 「ICT化の推進」と言うのが抽象すぎて。
- ・ タスクフティングが変わらない限り ICT 化だけが進んでも効率は上がらないと感じている
- ・ 一般的に進みそうだと思うけれど、恩恵を受けるのは末端の人で、準備をする人(管理職)の仕事は減らないと思うから

講師・男性

**思う

- ・ ICT 化が各業務の削減に寄与すればありうる。
- ・ ICT 化が業務を効率化を進めることができれば、勤務時間内での従業、代休、休暇などの体制や意識が普通、標準であるように意識や社会が変わっていくと思うから。
- ・ ICT 化により少なくとも時間の使い方は選択肢が広がると考える。
- ・ ある程度は進むだろう
- ・ いろいろ時間の短縮や無駄の削減に繋がるはず
- ・ オンラインで済むことは帰宅後自由な時間で業務をすすめることができるようになるから
- ・ オンライン機能の活用等なより自由度が上がるため
- ・ そうあって欲しいため。
- ・ ただし、個々の活用の仕方により異なると考える。
- ・ ただし、市民がそれを理解しないとけない
- ・ むりやりそのような方向にすすめるだろうから。
- ・ より便利にインフラと法が整備された場合は、自宅テレワークでのオンライン診療など可能性も広がるため
- ・ 移動・集合の時間を削減できる
- ・ 移動による肉体的なストレスや時間の消費が軽減された。自分のオフィスで業務が完結する。場合によっては自宅でも対応できる。無駄な時間がなくなったことで、必要な業務に割ける時間が増えた。
- ・ 移動時間が省略され、自分の時間は増えるため
- ・ 移動時間の無駄が無くなるため。また、slack などチャットでのやり取りが増え、他人の作業時間への割り込みが減ることなる。
- ・ 医師の仕事、診察も web で在宅ワークとなる。
- ・ 可能性を秘めている
- ・ 会議や書類に費やす時間は減る可能性はあるがまだ十分ではない。
- ・ 外部からのカルテへのアクセスやリモートでの指示を許可すべきです
- ・ 学会単位取得などで時間を割いて休日等に出張していたのが、オンラインで完遂できれば、その時間と手間、費用が削減できる。
- ・ 業務の委託ができる可能性があるため
- ・ 業務の効率化から就業時間短縮が可能となる。
- ・ 業務効率化、移動時間の短縮

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・業務時間と負担が減ればそれだけワークライフバランスが改善するため。
- ・業務時間短縮
- ・現在でも電子カルテを自宅で見られるなど、移動時間が減って効率的になっています
- ・効率のよい働き方が求められると考える。少なくとも、時間外の参加する意義の乏しい会議がどの場所でも参加できる様になれば、今の劣悪な環境から離脱できると思う。
- ・拘束時間を減らす努力、工夫をすれば
- ・差はないと思う
- ・在宅での仕事も可能
- ・在宅で会議参加可能
- ・在宅ワークなどの可能性。
- ・雑務が減るため
- ・雑務時間の短縮で残業時間が減る可能性がある
- ・仕事する時間が決定しているので、効率的な仕事ができる。
- ・時間が短縮され、求められるタスクが処理できるのであれば、それだけ早く家に帰ることができます。効率化された分だけ「Bull-Shit Jobs」を増やすことができると、経営者と労働者が望まなければ働き方は改善されると思います。また、ICT 化は手段であって、目的ではないことからずれることが無ければ利益を最大化するところで、作業を止まることができると思っています。
- ・時間と場所を問わずに働くことができるようになり選択肢が増えるため
- ・時間と労力の消費を抑えられる。
- ・時間の使い方については効率が良くなると思うから。
- ・時間外の講習や研究会への参加が自宅でも行える。
- ・時間活用が大事
- ・時間短縮にはよい。質が低下する可能性はあり。
- ・時間的余裕の確保につながる
- ・時短ができるため
- ・時短の流れは止められないと思うから
- ・自宅から仕事ができる
- ・自宅で仕事をするのが可能になります
- ・自宅や他の場所からでも参加可能なため。
- ・自由時間が増えるため。
- ・質はどうなるか不明だが、効率化は可能かと思われる。
- ・出張は無駄
- ・女性もオンラインで自宅から参加できるようになった
- ・上手く使えば仕事は減るはず。減ったためしは無いが。
- ・上手に活用すれば可能
- ・情報の共有はスムーズになる
- ・診療での患者さんの利便性はあがる。
- ・選択肢の多様性が増えることには期待できる
- ・一部の職種では進むと思う。
- ・多少は無駄な時間の縮減に作用する。
- ・多様な働き方が可能となる。
- ・働き方は変わるとは思います。全体の仕事量軽減が課題です。
- ・同じ作業をする必要がなくなるから
- ・在宅勤務の効果は大きい。
- ・特に教育、管理、研究に関しての無駄や非効率的な業務にかかる時間が減ると思うから
- ・分業化が進むため
- ・無駄が省けるので
- ・無駄な作業が減るため
- ・余計な交通時間が短縮される。
- ・良し悪しはあるが、どのような方向であれ、変革は進む。

**思わない

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ ICT が進んでも、結局やらなければならない仕事量は変わらない。
- ・ ICT 化が効率化には繋がらない
- ・ ICT 化しても中途半端であり、また別の業務が増えてくる。実際の業務量としては明らかに毎年増えている（書類等）
- ・ ICT 化にかかるコストやセキュリティの問題をクリアできなければ働き方改革に結びつかない。
- ・ ICT 化にもそれなりの煩雑さがある。
- ・ ICT 化のために要する時間が増えるから
- ・ ICT 化の推進により人手不足の解消や業務量の削減にはつながらないから。
- ・ ICT 化を推進するのにも業務が発生するから。
- ・ あまり影響を感じられないから。
- ・ インターネット環境の不備
- ・ オンサイトが原則である限りは不便さは解消されない。
- ・ オンライン会議への遠隔参加で無駄な会議に拘束される機会が減ったものの、変化は少しに留まるため。
- ・ そこまでの ICT 推進までは至っていないため。
- ・ ツールがよくなれば、それ以上の努力を求めたり、求められたりするので、結局、組織と個人の意識次第だと思われるため。
- ・ ほとんど形式的なものだから。現場での業務量は増え続けている。
- ・ まずは勤務医に対する適切な診療報酬体系を構築することではないでしょうか。
- ・ むしろ別の問題が多く発生すると思う。
- ・ より一層、救急医療に従事するもののみが薄給、過度な自己研鑽という名の拘束が進む。
- ・ 移動時間が発生しないことで空いた時間は研究や教育に費やされるから。
- ・ 医師の仕事は変わりができないため。
- ・ 医療は現場で起きており、ICT でどうしようもないことがたくさんあるので
- ・ 会議の回数が増えている。
- ・ 学会関連などの会議が増えるが、この時間は労働時間に入らないから
- ・ 管理業務などが一部の管理者権限のある医師に集中するようになり、より業務が増加している。自宅でできることが増加し、病院から離れることができるようにはなっても、自宅ですべて書類業務を行うようになり、結果としてワークライフバランスは悪化している。
- ・ 寄与する余地がないから
- ・ 勤務時間外もオンラインですべて仕事。
- ・ 空いた時間は別の新たな雑用にとられてしまうため。
- ・ 結局やらなければいけないことに変わりはないので ICT 化が進んでも行える場所が変わるだけで量が変わらなければ、もしくは分母の人員が変わらなければ変わるわけがない
- ・ 結局病院に行く時間は減らない
- ・ 見かけ上、職場にいないだけだから。
- ・ 現行の働き方改革自体に意味を見いだせていないため。
- ・ 現時点では、若い先生方も含めて現場の働き方への影響はないばかりか負担になっている業務もあります。
- ・ 現場の実情が考慮されていないため
- ・ 効率化によって出来た時間で、また次の仕事をしなければならないため
- ・ 最初にも書きましたが、自己研鑽とすることで表に出てこない勤務時間が増えるだけです。ICT 化ぐらいでこれは変えられないと思います。
- ・ 雑用は増える一方だから。誰かにぶっつけがいくだけ。
- ・ 仕事する人は業務量が増え、仕事しない人は業務量が減るから。
- ・ 仕事の内容、量、人員が変わらない
- ・ 仕事は無限にあるから
- ・ 資料作りが大変になるため、サービス残業が増える
- ・ 自己研鑽を業務として含めない限り、医師の残業は減らないと思うので
- ・ 手術時間や多くの外来患者の処理は、結局医師の技量
- ・ 診療があるから。
- ・ 中途半端な ICT 化はかえって業務を増やす印象がある。
- ・ 定時で終わって今まで以上に患者みて、手術もやって売り上げもあげ、研究業績も上げ、休みもとる、そんなことは無理でしょう。一見できている医師もいますが、その代わりほかの人が犠牲になっているだけです。
- ・ 働き方改革で労働者の労働時間制限をしても、労働の質が悪くなるだけの可能性はある。実質労働をしていない管理者が多

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

すぎる傾向にある。ICT 化することでなおさら PC の前に座って働いているようなふりをしている人が増え、労働力の減少に対応できない結果になると思う。短時間であっても学ぶ意欲、働く意欲を促し、新しい技能を身に着けるように促す政策をしないと男女共同参画は進みにくいと思う。

- ・働き方改革にはあまり関係ないと思います
- ・働き方改革を進めるには、声掛けだけではなくてお金を出さないとだめです。
- ・実際に夜間や休日に病院に来られる人のが増えないと改善はしないと思います。
- ・反対にいつでもどこでも業務を行うよう指示されるようになってきているから。
- ・負担が特定の人に集中するシステムは変わらないから
- ・無駄な仕事は増える一方。
- ・臨床現場の仕事は減らないと思うから

**わからない

- ・ICT の問題は小さいと思います
- ・ICT 化によりどのような好影響をもたらすのか予測できない。
- ・ICT 化のみが労働時間短縮につながるとは思えない。
- ・ICT 化の推進での効率化がイメージできない。
- ・ICT 化も良い面と悪い面があると思います。ICT 化を活用して在宅業務をした場合、その勤務時間をきちんと業務時間としてカウントする必要があると思いますので、業務の総時間は減らないと思います。
- ・ICT 化を実感していないので、わかりません
- ・イメージが湧かない。
- ・うまく使うためのノウハウがなかなかわからないから。
- ・オンライン診療等が一般化すれば良い
- ・ここでいうICT化が具体的にどういう状態、利用をさせているかよくわかりません。そのため以下回答しづらかったので無回答ないしわからないとしました。
- ・どこまでの ICT 化を勤務先が施行してくれるかが一切不明
- ・どこまでを勤務時間とするかの線引きが難しいから。
- ・医療は人対人で行うものであり、入院、検査、治療を遠隔化をできない部分があるため。
- ・家からも勉強会に参加できてしまう。何か仕事が減ったら、だいたい別の仕事が増えるから。
- ・基本的には働き方改革は進むと思うが、web の気軽さのためか、研究会などのお誘いが増えたため、余計な研究会を増やさないように、主催する側も考えないと、得られた余剰時間が結局は仕事に費やす事になるというジレンマはあります。
- ・業務効率を上げるために ICT 化は重要とおもうが、働き方改革の推進に対しどの程度の効果があるかは個人としては判断困難。
- ・業務方法ではなく、業務自体を効率化しないと、業務量は減らない。
- ・勤務者の行動変容のきっかけにはなるが、効果は限定的ではないか
- ・結局は Face to face の診察でないと内科は診療できない
- ・現時点では上の世代の意識の方が問題だと思うため。
- ・実際にどれほど変わるのかが予測できない
- ・実際に行う診療行為などは、あまりかわらない。
- ・実際勤めてどうかという問題だと思います
- ・実務は人なので 人が増える。十分な給与もらえる。の2つがないと改革にはおぼつかないと思う。実際、パートの人の方が給与がいいという実情を打破する常勤の手当が必要と思う。
- ・上手く ICT ツールを使いこなして、人の行動を変容させることが可能であれば、結果として働き方改革に繋がられるかも知れない
- ・想像がまだできていない
- ・直接結びつく理由が思いつきません。
- ・適切なシステムを使用しないと効率化が達成されないばかりか煩雑な手続きが増えるだけになったりする。
- ・働き方改革に良い影響は与えると思うが、進むとまでなるかは、不明確と考える。
- ・特定個人への業務の集中や業務量が減らないと、どこにいても仕事が降ってくることに変わりない気がします。
- ・余計な手間を機器がおこなってくれるので一見進む。しかし、ICT 化についていけない人とそれをフォローする作業の手間がかかる、便利なことが普及し行うことが余計に増えそうで、よめない。
- ・労働時間にカウントされない時間外労働が増加することが働き方改革の目的とは異なると思うため

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

講師・女性

**思う

- ・ ICT化の推進により、業務処理過程の効率化や必要所要時間の削減ができるから。
- ・ システムが体系化され、効率が上がれば進むと思う
- ・ そのための ICT 化であるため
- ・ どこからでも会議に参加できる
- ・ 移動時間の削減により効率化できると思う。
- ・ 遠方への出張の負担は減ったが、逆に自宅でも仕事が出来ると際限なく仕事をしてしまう面があるため、対策は必要。
- ・ 家族の通勤負担は減っている。食事を家でとるときかが増えた。
- ・ 業務の効率化、付き合いの減少は労働時間短縮に繋がると考えるが、特に一般企業や行政の事務作業に ICT 化があまり進んでおらず、医療や病院単独では限界がある。とくに福祉医療関係の行政手続きに ICT 化を強く望みます
- ・ 今まで惰性でアナログだった部分がデジタル化することにより効率が上がった
- ・ 在宅から参加できたり時間が節約できることで働きやすくなる可能性があると思います
- ・ 雑多なロスタイムの解消になると思う
- ・ 仕事が効率的に進めば、時間外労働数の減少につながると思う。
- ・ 時間・場所の自由度が増し、プライベート・主就労先施設の仕事の両立を進めやすくなり、多様な医師に平等な機会が提供されるようになった。
- ・ 時間の効率化ができれば働き方改革へ反映できる可能性がある
- ・ 時間の節約になる。
- ・ 手書き書類が減ることだけでも仕事量が減ると思う。
- ・ 集まったり移動する手間が省けるのは、効率化につながるから。
- ・ 女性も参加しやすい。
- ・ 人間が楽に働けるようになるなら改革になると思います。
- ・ 多様な働き方を実現する手法の一つと思うから
- ・ 必ずその場にはいないといけないということではなく参加できるようになった。
- ・ 必要なことで ICT が進めば改革は進むかも
- ・ 漫然とした業務が減少するため。
- ・ 無駄は減る

**思わない

- ・ ICT 化と働き方改革との間の直接的な関係はないと思う。人とのコミュニケーション方式などの面で、大きく変わっていくと考えられるが、必ずしもメリットばかりではなく、直接に人から人へ伝えることが少なくなることでデメリットの方が大きいと思う。
- ・ ICT 化の内容によると思う。
- ・ そこまで影響するかわからないため
- ・ 家に持ち帰る仕事が増える
- ・ 改善が見込める理屈が理解できない
- ・ 現場での仕事量が多いので ICT 化で解決できる問題は少ないように思う
- ・ 個人の意識の問題だから
- ・ 実質労働時間は変わらない
- ・ 診療の業務が減るとは思えないため
- ・ 直結するわけではない
- ・ 働き方改革自体が進むと思えない
- ・ 労働時間が長いことが「紙作業」によるものなのであれば ICT 化で部分的に解決すると思うが、もっと組織の構造的な問題が原因の場合にはあまり進まないのではないかと思う。

**わからない

- ・ どこに、どう用いるか次第なので
- ・ 移動がないが、参加することによって変わらないうえに
- ・ 医師の大都市偏在が解消されないと、自分の所属するような地方の大学病院では、人手不足は改善されないと思うので。ICT 化しても、結局のところは、スタッフの人数が大切だと感じる。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 各々の考えや状況が異なる
- ・ 業務を効率化する事で確保できた時間を有効活用できるのではと期待する一方で、せっかく確保した時間に新たな雑務が入りそうとも危惧しているから。
- ・ 効率化の一方で、職場の人間関係の複雑さや業務達成の圧力などは変わらないかもしれない。
- ・ 仕事効率が上がることと、自由時間がふえることはイコールではないと思います。
- ・ 診療に関しては遠隔は不可能であり、診療に従事している医師らは教育にかけるエフォートはわずかであるため、その部分がICT化してもさほど変化がないと考える。一方、研究や学会業務などの会議がICT化により、自宅でも可能になったことは多少の働き方改革につながると思う。しかしながら、その利便性により、土日や夜間でも会議を予定する傾向がみられるため、その効果のほどはわからない。
- ・ 診療科によると思います。
- ・ 部分的には進むと思うが、逆に ICT 化により時間がかかることもあるし、時間外で在宅していてもできる仕事が増えるので、職場にいる時間以外のサービス残業的な働き方ができてしまい、全体として働き方改革となるのかどうかはわからない。いつでもどこでもできることで、メリハリがつかなくなるのが懸念される。

講師・回答しない

**思う

- ・ 物理的な移動時間が削減できるから

**思わない

- ・ 業務内容を減らすことができなければ、ステルス残業が増えるだけなのではないかと思う。

**わからない

- ・ 診療科によっては恩恵があると思う。自分の科では関係ない

助教・男性

**思う

- ・ 「教育」「研究」「診療」の総和の負荷が軽減することで改善すると思う。
- ・ ICT が発展し現実に近い virtual 空間で学会参加などできるようになったり、遠隔で診察できるようになったりすれば質を落とさず労働時間を削減できる可能性はある。
- ・ ICT で様々な業務が効率化され、便利になれば働き方改革は進むが、余計な手間が増えるなら進まない。
- ・ ICT により改革の前進自体は推し進めることができるから
- ・ ICT により時間の節約が見込めるため
- ・ ICT 化が医療での働きかた改革を後押しすると思われるため。
- ・ ICT 化によって作業時間の短縮や効率アップが出来るため、時間に余裕が出来る
- ・ ICT 化を有効活用して、個々人の仕事負担を減らすことができれば働き方改革につながると思う。
- ・ あくまで個々人の費やす時間が減ることが前提ではあるが、時間管理しやすくなると思う。
- ・ いろいろな働き方の選択肢が増える。
- ・ うまく使うことで業務を効率化でき働き方改革の一助となる可能性がありそうです。
- ・ うまく導入すれば改善可能
- ・ オンライン会議による効率化
- ・ カルテ業務などの効率化が期待できる
- ・ コスト、セキュリティの問題はあるが、業務の効率化には必須と思われる。AI が業務を代替するシステムの構築が期待される。
- ・ これについてはメリットが大きい。多くの診療支援科(麻酔、放射線、病理)で業務シフトがおこると助かる。
- ・ そうしないと医者が集まらないと思う
- ・ そうなるように期待したい。
- ・ そのために ICT があるから
- ・ そのための推進なので。
- ・ タスクシフトしていきたい
- ・ データを活用して働きかけを行えば改善が期待できる。45と同じ理由。
- ・ ペーパーレス、オンライン化で改革は進むが、システムの設計が悪ければ逆効果にもなりうる
- ・ むしろそれに合わせた改革をすべきだから。

46. ICT化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・リモートワークで出勤時間をなくせばその分労働できる
- ・移動に使っていた時間をその他に使える
- ・移動時間が減ることなどから明らかに有用
- ・移動時間が少なくなるため時間ができる。その余った時間を自分のために使える。
- ・移動時間などの分、自由な時間は増えると思いますが、結局会議などが営業時間外で行われていては、その効果は限定的だと思います。
- ・移動時間の削減、作業を並列できる
- ・医療情報の共有一元化ができれば無駄な時間がなくなる。
- ・一般的な仕事に関しては「思う」、ですが、診療に関しては、あまり改革が進むとは考えていません。
- ・一部は、進む。
- ・一部は改善すると思う
- ・遠隔での仕事が可能になる。
- ・遠隔診療が進むといくらかは変わると思います
- ・遠方移動の頻度が減るので
- ・家にいながら仕事ができるため、家事の分担や女性の仕事が行いやすい
- ・家庭でも可能。
- ・改革は進むが、改善の方向に向かう改革となるかはわからない。自宅などでも医療業務に関わることができるようになれば、プライベートでも業務に携わる時間が生じる。家で仕事をしているだけで、実質的な業務時間は減らないと思う。
- ・学会出張前の業務が減ります。
- ・楽な方向には進むと思う、良し悪しは別として
- ・希望
- ・期待
- ・記述業務が減るため
- ・業務の効率化がはかれる
- ・業務時間が減ることにより、働き方改革にとって良い影響を与えたいと思います。
- ・業務内容が可視化、整理しやすくなる。ちゃんと経営するのに全員必須のスキルだと思う
- ・業務量は多少減ると思われるため。
- ・勤務の引き継ぎなど、情報共有はやりやすい。
- ・勤務時間削減のため。
- ・見かけ上進行はするだろう。
- ・現場で行う必要がある業務、オンラインで可能な業務のすみわけにより適材適所が可能となる
- ・現地へ出張するための移動時間は軽減されるため。
- ・効率が改善するため
- ・効率が良くなれば時間短縮は図れると思う
- ・効率よくできれば、それを指導してくださる専門家がいれば
- ・効率を優先的に考える時代になってくる
- ・効率化が進むと思われるから
- ・好きな時間に学会に参加できるため。
- ・拘束時間が短縮されるため。
- ・合理化は進むと思う。一方、診療の需要は旺盛なので、労働量自体は減らず、業務が過密化する。
- ・国が推進を続ければ進むと思う。ただし、働き方改革を形だけ導入しても、医師給与が時間外労働分減少することにより、医師のやる気の欠如。元々薄給傾向の大病院からの医師の撤退が起こり得る。中小病院では、医師確保を増やせないため、働き方改革は裏では進まず結局働く時間が変わらないと考える。
時間になったら帰るよというのであれば、業績や資格に応じた能力給を現状よりはっきりと導入すべきだと思います。その際に、学会活動や研究成果も評価する仕組みが必要。特に論文作成を評価すべき。
- ・今後必要性が高まる。
- ・在宅ワークやリモートワークの推進、作業の効率化
- ・在宅業務も可能となるため。
- ・作業などの省略化につながると思う。
- ・雑多な仕事が減れば。
- ・雑務の量が減れば、よりフレキシブルに働けるようにはなると思う。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・参加が容易になるため
- ・事務作業の効率化につながるのであれば。
- ・時間的余裕が出来る。連絡や情報共有がしやすくなる。
- ・時短ができるソフトが利用できれば、時間は少なくて済む。
- ・時短につながり、時間外労働を減らしやすくなるのではないかと思う。
- ・自宅からでも学会や会議に出席ができるから(そのぶん病院に報告のない時間外労働、自己研鑽は増えている)。救急外来でのデータ収集、統計が容易になるから(当院では導入出来ていないが)。
- ・自宅から参加が可能になったから。
- ・自宅でできる仕事は自宅で行えるようになるのではないのでしょうか
- ・自宅でも仕事ができるので、見かけ上の残業時間が減り、見かけ上の働き方改革が進む。(サービステレワークが増える。)
- ・自分に関してはあまり変わらないがリモートワークができる所なら変わらと思う
- ・出張の移動や宿泊に費やしていた時間が節約できるので、他の事に振り分けることが出来る。
- ・少しはかわるといいなあ
- ・義理や断りにくい研究会や学会参加などは、オンラインで参加しているように見せながら別な事ができるので大変有意義に感じる。
- ・情報の収集、共有などにおいて以前に比べて効率が良くなったため
- ・職場以外から介入可能となる。
- ・色々なことが時短にはなるから。
- ・人の無駄な作業が減るため
- ・推進しないよりは良いと思われる
- ・推進により業務改善が見込めるため。
- ・世代交代が起こりやすくなると思う。
- ・正確には ICT 化により業務の効率化が実際に行われなければ、「何のために」働き方改革を行おうとしていたかの真の目標は達成されず、名目の数字合わせが行われて虚偽報告や業務内容の実態とかけ離れた宿日直許可で欺瞞される。
- ・多少は改善されると思うため
- ・多少は時短できるでしょうか。
- ・台湾や北欧並みに導入できれば改善できると思う。
- ・長距離移動時間が削減できるため
- ・働き方を改革するための労力を軽減できる
- ・働き方改革そのものと思う。
- ・働き方改革は ICT 化の推進ありきだろうと思うので。実際は働き方改革により給料が減っただけの実感になりそうと懸念している。
- ・同じ業務を短時間でこなせる可能性
- ・必然性が高いことから。
- ・必要なそれぞれの時間がなくなるため
- ・不要な出勤が減り、休むことへの抵抗が減る
- ・便利な技術を利用しない選択肢はない。
- ・便利は確実に向上すると思うので
- ・無駄が少ないので業務が削減できる。
- ・無駄な会議に出なくて良いから
- ・無駄な仕事を減らせる。
- ・無駄な時間が削減される
- ・無駄な調べ物が減るため
- ・無用な業務の短縮に寄与
- ・利用できるツールを開発してくれる人材が増えると思うから。
- ・立場によっても違うが、参加に関する拘束力が低下したように感じるため、より自己研鑽としての意味合いが増えると思う。
- ・良い方向だけでなく、悪い部分もあると思いますが、変化(改善?改悪?)すると思います。
- ・良い面、悪い面ともあると思うが、効率化に ICT 化は寄与してくれると考えるため
- ・良し悪しは別として、働き方改革は表面上進むと思っているから。
- ・良悪は別として、すごい勢いで進んでいく気がします。
- ・例えば家で子育てしながら出来る業務も増える。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・労働時間の把握(タイムカード導入)だけは進む。
- ・労働実態が可視化されるから
- ・労働場所を選ばない業務についての参加が期待できると思うが、そのような業務と診療などの対面が必要な業務の仕分け/分業が進むかどうかにかかわると思う。

**思わない

- ・ICT データを加えてより高度な医療を求められるだけと思われるため、国民もコロナ禍で思い知ったと思うが医療供給体制には限界があり、老人は見殺し、病院には診療拒否の権利を強めなければ医療崩壊は何も変わらない。
- ・ICT でできない仕事が、実働部隊の仕事負荷となり、実働部隊が疲弊する(現実的にはサビ残のヤマ)
- ・ICT に適さない業務が大半を占める。
- ・ICT を進めると、管理する人手が必要になる
- ・ICT 化が業務の効率化に依然として至っていないため。
- ・ICT 化されても、診療を行なっている以上は、我々の働き方は変化しない。
- ・ICT 化と働き方改革はあまり関係がないと感ずるため。
- ・ICT 化と働き方改革は別問題であるため。
- ・ICT 化によって参加可能な学習機会が増えれば、逆に働き方改革は進まない。
- ・ICT 化によって対面の機会が減るとは思うが、業務時間としては変わらないだろうし、ICT を利用した業務を業務とカウントしないわけにはいかないだろうから
- ・ICT 化以外の業務の効率化を図る必要があるから
- ・おそらくともに改革はなされない。やった感がでるだけ。
- ・オンラインでは対応できない患者が多数
- ・ここまで述べてきたとおり、医師の働き方改革が全く中身の無いものだから。
- ・そもそも働き方改革が名目だけのものになっていると感ずているから
- ・それを目的にすると失敗する
- ・デバイス使用に時間がかかる
- ・どういう形で進むのか想像できません。
- ・まだメリットを感ずていないから
- ・まだ医療の分野での ICT の利活用は遅れていると感ずているため
- ・運用される側の問題。
- ・下請け中抜きされてうまく行かない
- ・外科的な診察にはつながらない
- ・学会参加などで削減された時間は全体の時間から見れば僅かの時間だから
- ・患者の数は減らない。働き方改革で診療拒否ができるようになるなら進むと思う。
- ・患者を診ないとわからないことが多いので
- ・管理者に負担がかかる
- ・間違いなく便利な技術ができれば忙しくなる。歴史が証明している。
- ・逆に全てが中途半端で負担ばかり増えると考え
- ・業務が効率化されても医療界体質は変わらない。別の仕事が増えるだけ。
- ・業務は次々と出てくるため、勤務時間は減りそうにないため。
- ・業務を削減する目的で適切に使用されれば可能だが、現時点では絵に描いた餅である。
- ・業務量の問題であるため
- ・業務量を減らすことが優先される。
- ・結局は職場の雰囲気、上司の考え次第だと思う。
- ・結局仕事に拘束される時間は変わらないから
- ・結局別の種類の仕事が増えると思うから。
- ・元々の医師の業務量が多いため。
- ・現場(病院)は実質的に変わろうとしないため
- ・効率化だけ、時間は減っていない、むしろ増えている業務もある
- ・在宅から会議などに参加できるが、本学および当院ではそれを業務時間として一切みなしていない。そういう意味ではむしろライフワークバランスが悪化している。
- ・仕事の量は変わらないため、今まで以上に過酷になっている

46. ICT化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・仕事量が変われば、現状するでしょうが、現状変化がないため。
- ・時間外会議は相変わらず多い(むしろ増えた)
- ・自分の専門領域における医師の業務がICT化によって効率化される部分が少ないと見込まれるから。
- ・収入が減るだけ
- ・職務内容が減るとは思えない
- ・進む理由を教えてください。
- ・制限が増えたため。
- ・節約した分、他の業務が増えるため
- ・早く迅速に情報を伝えることができる反面、結果的に対面による処理を要する業務内容が多く、業務内容が減ることにはならないと予想され、ワークライフバランスの改善に繋がるかは不明で、働き方改革の一手になりうるかも不明瞭と言わざるを得ない。
- ・待機、当直には関係ないため
- ・大幅な時間短縮にはならない
- ・担当する絶対的な仕事量を分配しない限り、変わらないと思う。
- ・電子カルテで事務員が不要となると幻想を抱いていたことと同じです。ICT化が進んでも人を減らしてはいけないと思います。働き方改革は、前提として人員が増えなければ実現は難しいと思います。
- ・働き方は変化しないから
- ・働き方改革の方針自体が、医療現場にそぐわないため、ICT化をしたとして働き方改革に寄与するとは思えない。
- ・働き方改革は、ICT化は微々たる影響で、問題は金銭と人員がメインだから。
- ・働き方改革は上層部の意識の持ち方次第
- ・働き方改革自体が大変無意味な行為。結局患者にとって不利益になるということがわからないのか。
- ・病院の集約化が進まない働き方改革は実現不能と思う。
- ・別の作業の増大、推進にともなうしわ寄せなどの負の要因が大きい。
- ・別次元の話だと思う
- ・労働時間延長を避けることだけを意識的改革として挙がり、医療現場の具体的な方針が漠然としているため。

**わからない

- ・ICTだけで辻褄が合う訳ではない
- ・ICT化がどんな風に今後すすむかによる。
- ・ICT化とは？具体的に何をさしているのでしょうか。
- ・ICT化には費用がかかるため。アプリの成熟度の問題。
- ・ICT化により個々の業務は効率化されても、ICT化されていなかったことで実施できなかった業務が実施できるようになり、業務が増える結果も起こりうる
- ・ICT化を進める人の質に依存する。空気読める人が進めるべきだと感じる。生真面目がやると良くないことになっている
- ・ICT化推進が働き方改革の目玉として扱われることに違和感を感じる
- ・ICT化推進の実感がない。
- ・IT部門の待遇を改善しなければだめです。
- ・ある一定の場面においては進むと思うが、変わらない場面もあると思うので、状況によると思う。
- ・イメージがわからない
- ・オンラインでも働いている時間が長くなれば労働時間の削減にならないから
- ・オンラインで家でも仕事が出来てしまうがゆえのデメリットもあるように思います。
- ・タスクシェアリングや厚労省の指導内容が働き方改革、ICT化にそくしたものに改善されなければ、いずれも進まない、もしくは形骸化したものとなることが懸念されるため。
- ・タスクシフトの推進の方がより効果ありか
- ・テクノロジーも運用も使う組織の考え方次第だから。
- ・どこでどうICT化を使うかだと思います。
- ・どこでも参加できるため、実労働は増えるかもしれない。効率は上がる。管理者の腕次第。
- ・どこでも仕事ができってしまうため、常に業務に追われている感覚になるかもしれない。
- ・どのように活用されていくのか想像ができないため
- ・どの部分が効率化につながるかがよくわからない
- ・なかなか医療はICT化で全て上手くいくとは思えない。結局は人と人との関係が出てくるので難しいのではないのでしょうか
- ・はっきりした答えは持ち合わせていない。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 移動時間が節約されるが、全体の仕事量に比べるとわずかなため
- ・ 医療における ICT は、患者のための診療の質を上げることにつながると思うが、医師の働き方改革にはならないと思っている。
- ・ 一般的な疾患は働き方改革が進んで問題ないが、稀で重症、急性の疾患では、明らかに医師の質が落ちるだろう。疾患の質に応じて変えていくのは当然である。
- ・ 遠隔診療推進の有無次第
- ・ 何を重視した働き方改革かわからない
- ・ 家に帰ることができたとしても、在宅でやらなければならないことが増えることは懸念
- ・ 家庭にいながら会議に参加可能なことは、家庭での役割が多い人物(男女問わず)にメリット。アーカイブを視聴することで、自由な時間に情報にアクセスできる。ただし、これらは記録上の労働時間にカウントされないため、労働の実態は変わらないか、潜在的に悪化する懸念がある。このアンケートも、大学から入力を指示されて日曜日に自宅からやっているが、当然労働時間にカウントされない。
- ・ 改善する側面と悪化する側面があるため、単純には回答できませんでした。
- ・ 確認のための確認に必要なことが多く、結局は ICT 化に対するリスク管理に時間が取られる。
- ・ 管理者の姿勢次第と考えるため。
- ・ 管理職が対応出来ず、現場の負担は増える可能性あり。
- ・ 求められる事の多さを改善しない限りは、働き方改革は進まないと考えます。
- ・ 勤務時間の短縮に寄与する影響はまだ限定的であるが、今後の発展によっては分からないため
- ・ 具体的なイメージがわからない。
- ・ 具体的な施策がわからない。
- ・ 具体的に ICT 化で何をやるのかが分からないので答えられません
- ・ 具体的に何がどうなるかが分からないので、如何様にも感じようがない
- ・ 結局は、人員無くて業務は進まないため、やりやすくなっても時間的な改革にはほど遠いかと思う
- ・ 現在のところ改善した印象はないが、よりそのような機会増えることにより改善してほしいと期待する
- ・ 現時点ではうまくいっていない
- ・ 現実味がないため分かりません。
- ・ 現場の人間が使いこなせるか、予算をさけるか次第
- ・ 効率化によって短縮できる分もあるが、制限されてできなくなるの方が多くなる、制限される部分は ICT 化とは関係ない
- ・ 効率的に会議や講演が可能となる分、会議や講演時間が増える可能性もあるため総じて
- ・ 使い慣れるまではそれ程時短に寄与しないから。時短につながるほど使い慣れるか不明です。
- ・ 自宅でも仕事ができちゃう負担の増加
- ・ 少なくとも過渡期では後退すると思う。完成されれば進むと思うが、患者など受け取る側が良しとするか、データに関しては膨大になると思われるものを永続的に扱えるか私たちが扱えるかの問題は残ると思う。しかしながら、お金が出せないので半永久的に過渡期となることも考えられる。
- ・ 少なくとも業務しやすくなる
- ・ 診療・研究・教育に関連するデスクワークや会議などのリモートワークを『自己研鑽』として勤務に含めないことを美学とするような管理者が多い職場環境であれば、記録上は時間外勤務が減り業績は落ちないという素晴らしいものになるが、実態とは異なるため。
- ・ 診療がオンラインのほうが優れているとはならないため。
- ・ 診療時間の短縮に寄与すれば可能性はある。
- ・ 身近でない
- ・ 人によると思います
- ・ 操作が増えて仕事量が増しているため。
- ・ 相当進んでいかないと変わらないと思う
- ・ 総労働時間は減少すると思うが、減った時間がすべて自由時間・プライベートの時間が増えるかは人それぞれだと思う。
- ・ 多様性は増えるが、多様性に合わせるだけの労力は必要。その労力が時間の長期化、短縮化は人やタイミングによると思う。
- ・ 直接人と人であって、コミュニケーションをとることが重要だと思う
- ・ 働き方改革がマイナスでしかない。
- ・ 働き方改革にはさまざまなしらみがある
- ・ 働き方改革は既に形骸化しているから
- ・ 部署の姿勢によると思う。
- ・ 別問題ではないかと思う

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 模索中ですよ？

助教・女性

**思う

- ・ AI がしてくれる仕事が増えると思われるから
- ・ ICT 化するのであれば、働き手の負担が減る方向に活用すべきと考える。
- ・ ICT 化を用いることで時間の削減と効率化の上昇が見られるため。
- ・ ある種の無駄が省ければ繋がると思います。
- ・ カルテ記載が音声入力などになり、患者への術前説明等が録画となれば、改めて診療録記載する必要なく、労働時間短縮になるし、医師と患者の説明の齟齬などなくなるのではないかと。
- ・ カルテ記載業務や文書作成業務の軽減など
- ・ カンファレンスや学会等に参加しやすくなる。
- ・ これまで一堂に会していた会議やカンファレンス、授業を ICT 化することで、感染の機会を減少でき、より時間の有効利用ができると思う。
- ・ これまで一部の同じ医局に医師数名と外来看護師から、診療する環境をなくされたり、自分の仕事・能力・態度を否定され、責められていたが、DrJOY 等導入後は、すくなくとも勤務した時間と勤務場所を打刻で証明でき、産業医の先生に相談できたから
- ・ せめてそれくらいは貢献してほしい
- ・ より短時間でできる業務などがあるのではないかと推測するため。
- ・ 移動時間が削減可能であり、オンライン診療を促進していくべきと感じる。
- ・ 移動時間の節約ができることで通勤時間が短縮されれば、その分を別のことに当てられる
- ・ 移動時間削減
- ・ 医師の人数には制限がある、また、地域間格差があることなども、ICT を活用して遠隔診療や、効率化による業務削減が進めば、働き方がいかかにつながると思う
- ・ 会議や学会参加のための移動時間が減った分、その他の業務に充てられるから
- ・ 会議時間などの短縮につながる
- ・ 改善すると思います。
- ・ 学生の出欠確認のような雑務などは減ると思う。
- ・ 業種や仕事の内容によってはテレワークできることもあるのでは、と思う
- ・ 業務のアウトソーシングにつながる
- ・ 業務の効率化ができれば、業務時間の短縮が可能と思われる。
- ・ 業務負担が軽減すれば働き方改革も進むと思われる。
- ・ 効率よく仕事ができる可能性がありそう
- ・ 効率よく利用する必要があると思います。
- ・ 効率化を図ることで、全員の業務負担が減ったり、現場にいなくても担える業務があることで、オンコール待機が可能になったりするはずなので。
- ・ 行き帰りの時間を考慮して働く必要がないため
- ・ 在宅でも働くことができるようになるため
- ・ 作業の効率化が進み、最適な人員配置が可能になれば能力を十分に生かしながら勤務時間を抑えることができると思う。
- ・ 雑務で時間外業務が発生しているから
- ・ 仕事を数値化できる部分は有用と思う。
- ・ 時間と場所の制約は減り、選択肢がふえるため
- ・ 時間の節約は図ることができると感じる。
- ・ 時間を効率的に使えることで帰宅時間を早められる可能性があるから
- ・ 時間短縮に寄与できるから。
- ・ 自宅からでもオンラインで仕事できる
- ・ 自宅からの会議等参加は無駄に職場に拘束される時間を減らすことができる。子育て中などの人も会議参加や知識のアップデートがしやすい。
- ・ 自宅から参加できるため
- ・ 自宅にいながら診療や学会、会議の参加で移動の時間がなくなれば、自由に使用できる時間が増えるため、少しでも改革は進むのではないのでしょうか。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・実際に出向かなくても仕事ができるようになるので。
- ・手間暇部分の短縮可能となるだろうから
- ・出勤等当たり前であったことが変化し、より効率化できる。
- ・省略できる仕事が増えるから
- ・自宅からの遠隔指導や情報共有のツールとなりうる
- ・上手く利用できる体制作りも必要
- ・職場として、ICT 化を受け入れることで、現場にいずれとも仕事が出来れば、個人の時間が別途出来るようになる。
- ・診療情報提供書も紙からカルテ記載するのに時間を要する。こういった情報のやりとりもオンラインでできるようになれば、時間の短縮になる。
- ・進みそうな気がします
- ・人の手が入るところを減らせる
- ・人的資源、経済的資源がない以上、効率化は ICT に頼るしかない。
- ・選択肢が増えるのは働き方改革を進めるために役立つが、人員の確保などそれ以外にも重要なことがあると思う。
- ・全ての作業の効率化。
- ・早く家に帰れる可能性が出てくる。
- ・多様な働き方への対応が可能
- ・代行業務はしやすくなると思う。
- ・働き方の多様性は出てくると思う
- ・働き方の多様性を推進することにつながると思います。多様性を重視することはマンパワーの確保につながると思います。
- ・病院以外での作業が可能になる。情報共有し業務分担ができる。
- ・不必要な人員削減はできる部分もあると思う。それも現場に即した使い方であることが第一ではあると思う。
- ・分からない。なんとなくそう思う。
- ・無駄な移動や集まりを減らせる
- ・無駄な仕事が減る
- ・無駄を省けるから

**思わない

- ・ICT 化されても会議の総数が変わらなければ一緒だと思います。
- ・オンラインで学会などに参加できるからこそ、日中ではなく夜間・休日の参加が増えたから。
- ・そもそも人手不足、またタスクシフトが進んでいないことが原因
- ・どう寄与するか想像できない
- ・どこかでほころびはでる
- ・ほぼ全てにおいて医師の指示が必要とされている時点で分業は進みません。
- ・家にいる間も講演会や学会の視聴・参加が可能となったことで ON/OFF の境界がつけにくくなり、夜遅い講演会も増加したと感ずることから働き方改革に逆行していると感じる
- ・外注できなければ、業務の総量は減らない
- ・気軽にカンファレンスが出来ると、夜のカンファレンスが増えた。
- ・業務が却って増えている現状を踏まえると。
- ・結局、病院内へ行かなければならない。子供を家で見ながらの参加は難しい。
- ・現場での業務が多いため。
- ・現場の環境(診療業務量、家事・育児の分担)に変化はないから。
- ・個々人の意識の改善のほう働き方改革に寄与する割合が多いと思うから
- ・効率よく仕事をすればするほど仕事は増えるので。
- ・根本的な人手不足が解消しなければ変わらない
- ・事前準備などの対価が支払われない限り、変わらない
- ・時間を費やすのは患者への説明や話をきくことで、それは ICT 化できない。
- ・診療は ICT で効率化できる業務でないから
- ・診療は現場でしかできないから。家でオンライン会議に参加するのは結局時間外労働だし、オンラインで解決できるのは会議の移動時間の短縮のみではないかと思う。
- ・早くなった分だけどんどん仕事が増える

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

**わからない

- ・ ICT 化によって具体的にどんなメリット、デメリットがあるのかを知らないから
- ・ ICT 化によって単純化・効率化される勤務内容があれば、かえって煩雑化するものもあるから。
- ・ ICT 化は良いと思うが、システムがかえって複雑になる可能性も考えられるため。
- ・ うまく運用できないと結局時間がかかってしまう可能性がある
- ・ コミュニケーションがとりづらい
- ・ サービス残業が増加し、給料が減収になるだけの懸念がぬぐえない
- ・ どういうシステムであるかが大事
- ・ どこからどこまでが勤務時間か、明確でなくなる現状がある。
- ・ メリット・デメリットがそれぞれあるため
- ・ 一つの手段に過ぎない
- ・ 遠隔でできることがさらなる激務を引き起こす可能性はあるかもしれません
- ・ 家ででの仕事が増えるだけだと思う。
- ・ 外部資金をとる男性研究医を尊重するようにすべての物事が動くから
- ・ 関係なさそう
- ・ 基本的には業務の効率化が ICT 化で推進されると思いますが、使い方を間違えると、勤務時間外にタダ働きの業務が増えるだけです。
- ・ 期待はしたい
- ・ 逆に把握できないオンライン業務が増えているのではないか。どうやって管理するのか。
- ・ 具体案が見えないので。
- ・ 結局は時間をとられるため
- ・ 現場で対応しなければならぬことが多いので。
- ・ 現状見通し不明
- ・ 効率化を追求するとトイレ休憩なども管理に含まれ、時間短縮する方向に向かい汲々としそう
- ・ 在宅業務ができることで、仕事とプライベートの境界があいまいになる可能性はある
- ・ 作業場所の自由や手間の削減ができる反面、どこでも仕事をするのが求められる(そして業務時間のカウントが曖昧になる)要素もあるので、どちらがより影響するのか分からない。
- ・ 参加しやすい反面予定が増えたり、後で聞けると後回しにしたり、何かしながら聞いたり、オンオフが曖昧になっているような気がします。
- ・ 仕事量自体を減らす努力が必要だと思います。
- ・ 自宅での業務を勤務時間と見なすかどうか。「自宅でも仕事できるよね」と言われてしまうと結局負担は変わらず、表面上だけの働き方改革になりうる
- ・ 自分の職種はリモートワーク不可能と考えている
- ・ 自分自身 ICT 化が進んでも働き方は改善していないから。単に、若手でなくなったから病棟を担当しなくなって診療時間が減っただけだから。
- ・ 実感なし
- ・ 進んでくれたらいいと思います
- ・ 想像できない
- ・ 働き方改革が今後どのように進むのかわからないため。
- ・ 働き方改革を推進する具体的な ICT 活用の例が思いつきません。アンケートの分量が多く、一つ一つ真剣に考えて回答していたら疲れてきました。。
- ・ 内容の整理と改善も併せて行われないと ICT 化だけ推進しても働き方改革にはならないから。
- ・ 分野によってはあまり影響を受けない可能性があると思う。
- ・ 勉強不足で医療関係で改善したケースを存じないため判断できません。
- ・ 余計な仕事も増えているので

助教・回答しない

**思う

- ・ 効率的な業務が可能になるため

**わからない

46. ICT化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 個人的にオンラインをほぼ利用しないため

医員・男性

**思う

- ・ AI化が進むとっと人がいらなくなるんじゃないかと思っています。
- ・ ICT化により、業務量が減るから。
- ・ web会議等の利便性に便乗して不要な会議等が増えなければ、基本的には働き方の改善につながるはず。
- ・ web使用が増えたため
- ・ オンデマンドの学会発表動画であれば隙間の時間で、聴講が可能であり拘束時間短縮されるため。
- ・ きちんとICT化が進んで、結果全体の業務量の削減ができるのであれば、もっと働き方改革が進むのではないのでしょうか。
- ・ これまでの移動などに費やした時間を他に割り当てられるから
- ・ しっかり現状が見えるようになるため
- ・ ちゃんとICT化を適用できれば進むと思う。
- ・ どこまで効果があるかは不明だが、省時間にはなるため、働き方改革を進めやすくなると思う。
- ・ より効率重視になると考えるから。
- ・ リモートでの参加が可能となるから
- ・ 移動なく会議など参加できる。自宅からでも参加できるため。
- ・ 移動時間が減るだけで勤務に割く時間が変化する
- ・ 一つ一つの業務にかかる時間が節約できるため
- ・ 業務の効率化が進むから。
- ・ 業務時間の短縮による効果は大きいと思います。
- ・ 業務短縮につながるのであれば、進むと思う
- ・ 効率が良くなるから
- ・ 効率化できる会社や人間が一定数いるため
- ・ 仕事の効率化が進み、本来の仕事である専門に集中できるため。
- ・ 仕事効率化でのあまった時間をワークライフバランス改善に向けることができれば可能。
- ・ 時間削減
- ・ 時短が望める
- ・ 自宅からオーダーなどできれば
- ・ 手入力や書類の数を減らせると思います。
- ・ 書類作成の時間短縮
- ・ 書類仕事がへる
- ・ 色々な時短につながるから。
- ・ 素晴らしいものだから。
- ・ 多様性が生まれるため、ただ、専門性が進むため、効率低下が懸念される
- ・ 単純に業務量を減らせる可能性があると思う
- ・ 動画を使うことでの授業負担の軽減にはなる。
- ・ 分業が良いと思う
- ・ 無駄な時間が減るため
- ・ 無駄な書面での業務がなくなるため。

**思わない

- ・ ICTと働き方改革は関係がないと思う。コンピュータがない時代でも労働基準法が守られていたことはあつたらう。
- ・ ICT化で上司からのおおせつかる仕事量が増える。働き方改革により、強制的に病院などの労働時間が減少させられ、家での仕事量が増え、むしろ働き方が難しくなっている。
- ・ ICT化で不正な時間外労働の申告などは減らせると思うが、それだけで時間外労働を減らせる訳ではないから。
- ・ ICT化と働き方改革は別個の物に感じるから。
- ・ オンライン診療しても、一部の専門性を有する患者の予後は良くできないため
- ・ そもそもICT化とは何ですか？
- ・ どうせ仕事の量は変わらない
- ・ 悪化すると思う。

46. ICT化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 医師の仕事が減るわけではないから
- ・ 医療は結局直接対面がメインだから。放射線科や病理などはある程度恩恵があるかもしれない。
- ・ 関連がよく分からない
- ・ 机上の空論だと思います。大学病院レベルのかい組織がフットワーク重く進みません。厚生省でオンライン診療の併用を義務化、徹底するとか指針作って達成年度決めて強制的にやらなきゃ無理。
今の時代出来るのは放射線科と病理医だけ。遅い日本ではあと30年は無理でしょう。
- ・ 期待するだけ無駄なため
- ・ 実質的な労働時間を増やしているにすぎない。我々を仕事に縛り付けることにつながっただけである。むしろ給与だけが減って何一つ良いことをしていない。今すぐ元に戻すべきだ。
- ・ 医療業務に関して言えば、年々情報量が増えると共に仕事量が増え、中には業務の安全性等を優先するためとは言え、本当に必要なのかと思える業務も増えており、働き方改革には程遠い現状を感じています。
- ・ 直接関係ない
- ・ 日常診療で対面を要求されるので
- ・ 日本の古い大学の体制では無理。余計な仕事が増えるだけ
- ・ 病院で勤務するということは、どのような状況であっても、出勤して現場で業務にあたる必要があるように思うので。

**わからない

- ・ ICT化を業務効率化の最大の目的として行っている機関は多くないと思われるから。
- ・ あまり経験がないから。
- ・ イメージがわからない。
- ・ メリットは多く感じられるが、病院から出ることと仕事が終わることがイコールではなくなる可能性があり、境界が不明瞭になってむしろ仕事が増える可能性も危惧される。
- ・ やってみてどうなるか判断すると思われる
- ・ やれることが増えるようになるから
- ・ 感染リスクを減らすことができる上に、効率よく業務を行えることで本来の業務に割く時間を増やすことができると考えるが、患者の数は変わらないため仕事量そのものは変化しないと考える。
- ・ 業務そのものがICT化で変化するか分からないです。
- ・ 勤務時間そのものが減ることは考えにくい。
- ・ 結局、休みづらい空気であれば、ICT化であろうとなかろうと休みづらいため
- ・ 効率はよくなるが、仕事量が増えればわからない。
- ・ 根本が変わらないと意味がない
- ・ 仕事量が個人により異なるため一概に言えない。仕事量が多い者は、情報量の増大により一層忙しくなるかもしれない。また、医療においては患者・家族側の主治医性からの意識変容が必要であり、この点についてはICT化の推進での働き方改革では進まないと思われる。
- ・ 詳しくわかりません。
- ・ 上層部や管理者が使いこなせていないので、変わらないと思っています
- ・ 職種によるが、ICT化で仕事の進みが早くなるかは仕事内容によるから。
- ・ 推進化された先のビジョンが見えないため。
- ・ 適切にICT化が進めばいいが、無駄な業務が増やされて結局時間が変わらないという可能性もある
- ・ 働き方改革がそれぞれが違う現場の状況を理解して行っていないから
- ・ 働き方改革が進むことを期待したが、ICT化に伴う業務増加も懸念されるから。
- ・ 働き方改革は多方面からの調整が必要のため
- ・ 方法次第だと思う。
- ・ 無駄なカンファは明らかに増えてしまった

医員・女性

**思う

- ・ 1人の負担が改善すれば進むと思います。医師数が増えないと難しい気がします。
- ・ むしろ不可欠だと思う
- ・ 学会に伴う移動や飲み会が無駄
- ・ 業務の効率化が進むので。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・業務の効率化によってより時間が柔軟に使えるようになるから。
- ・業務の効率化を図ることができると思うから
- ・業務を行う時間や場所が縛られないことは、自分の時間を有効に使えることにつながると思う
- ・現地への移動の時間が減るから。
- ・現地開催の会議や、多くのペーパー業務が非効率すぎたので、ICT による業務効率化に期待したい。
- ・個人の実務時間が明瞭化されれば、業務分担が進むと思うから。
- ・拘束時間が短くなる
- ・在宅ワークができる。
- ・仕事量が減りそうだから。
- ・子供や介護者がいると外出もままならないため
- ・時間・場所の融通がききやすくなることで、少しは変わるかもしれない
- ・時間を有意義に使えるため
- ・時間を有効に使えるところは多いと思うから。
- ・自由が効くと思うから
- ・誰でも参加しやすい
- ・男性が家にいる時間が増え、家庭生活の実際を経験することで、男性の働き方改革の意識も高まる
- ・働き方の現状が可視化されるから。
- ・無駄な時間を効率よくできそう。
- ・無駄は省けそう

**思わない

- ・ICT 化が進んでも、実際の現場の一人当たりの業務負担が減るわけではなく、働き方改革という言葉が先歩きして、時間外労働をつけにくくするだけだと思う。
- ・ICT 進化で可視化することで逆に悪化する可能性もあると思うから。
- ・いくら ICT 化が進んでも対面を好まれる機会や対面でしかできないことが多く限界はあると思うから
- ・院外で電カルが見らないなら何も変わらない
- ・関係ないと思います。
- ・効率化や時間短縮の影響は微々たるものと思う
- ・仕事量を減らさないと何も変わらない
- ・私生活は犠牲になって当然といった基本的な考え方は変わらないと思う。
- ・制約時間は変わらないから

**わからない

- ・ICT 化と、働き方改革が結びつくのかは疑問
- ・うまく工夫してできれば
- ・どのような ICT 化があるのか知らないから。
- ・もっと上手く機能するようになるのかわからないから
- ・位置情報を使った勤怠管理システムを、勤務者の労働時間を過小に記録するために悪用しているような話を聞いたことがあるから。使い方次第だと思います。
- ・医師の仕事が臨床ありきなので
- ・医者として働く時間は変わらないから
- ・看護師が自分で考えて行動し余計な確認を行わないことが大前提。また、患者教育に ICT を利用するなど、医師が使うのではない ICT 利用方法も考えていく必要がある。
- ・境界が曖昧になりそうな気がします。
- ・勤務時間を削減し、勤務時間外への浸出を無くさないと難しいと思う。
- ・結果をみてみないと分からないため。
- ・使い方によっては
- ・長時間勤務の現状を把握しても改善はされていない。改善するような措置もない。
- ・働き方改革の目的と ICT 化とがどのような関係性になるのか分からないから。
- ・本来欠席で済まされた会議にオンラインだと参加できてしまう→参加しなければならないという状況も発生しそうだと思うから。

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

医員・回答しない

**思う

- ・作業の効率化を筆頭に働き方は変化するため、結果の良し悪しは不明であるが、改革は進むものと考えられる。

専攻医・男性

**思う

- ・移動時間などが減り業務終了時間が早まるため
- ・移動時間などを減らすことで、その時間を他業務に充てられるから。
- ・一つの方法として有効だと思う
- ・業務が簡素化されるため
- ・業務の改善が期待できるため。
- ・業務時間短縮につながる
- ・勤務時間の正確な把握、作業の効率化が可能となるため
- ・限定的ですが、進むと思います。
- ・効率が良くなれば働き方改革は進むと思う。ICT 化で余計な仕事が増えるリスクもあるが。
- ・効率生産性があがる。
- ・在宅で簡単な確認事項が済まされることもあるため、在宅勤務も進められる。
- ・作業効率があがるため
- ・雑務の解消に繋がるから
- ・仕事内容を明確にし、煩雑な事務作業が少なくなることは、労働時間の短縮につながり、働き方改革の主意に沿うものであると考えるから。
- ・時間のかかる作業の効率化が良いと思います。
- ・時間の使い方に変化があるから。
- ・時短につながると思うからです。
- ・働き方に適した対応ができるようになる
- ・導入の手間を超えればよいと思う
- ・特に時間が節約できるから。
- ・無駄な作業をしなくて済むから
- ・余計な業務短縮が可能な分野がある
- ・労働の効率化にはつながると思う。

**思わない

- ・そもそもの方向性が間違っている
- ・医療システムの根本的見直しが必要
- ・空いた時間を余暇に使えるのならよいが、実際には空いた時間にさらに仕事が降ってくるため
- ・行うべき業務は一緒のため
- ・仕事量自体は変わらない
- ・電子カルテが進化していない

**わからない

- ・ICT で効率化されて余った時間は、他のことに費やされるだけだと思う。
- ・ICT について分かってないから。
- ・ICT 自体がまだそんなに進行してないと思いますので、現時点ではわかりません。
- ・それだけで良くなるとは思えない
- ・チャット GPT の登場で本格的な AI 時代が到来しようとしている。コンドラチェフの波における IT 革命に次ぐいわば AI 革命ともいえよう。我々が IT によって働かせられる社会になるのか、IT を働かせる社会になるのか。主体的施行の出来る国民国家のみが生き残れる。AI の登場は、世界をさらなる混沌へと導くであろう。社会構造の急激な変革を受け入れる覚悟があるのか、勝負する覚悟があるのか、今こそ日本国民が決断するときである。
- ・はじめてみないとわからない
- ・まだ実際に恩恵を感じたことがないから
- ・関係ないのでは

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 検討がつかない。
- ・ 時と場合によります。
- ・ 実感がないから
- ・ 働き方改革は時間効率もだが、人員不足や科の特性によるところもあり ICT 化の推進が即つながるから疑問であるから

専攻医・女性

**思う

- ・ 移動という無駄な時間を削減できた
- ・ 遠隔地での業務・研究への参加が可能となるから。
- ・ 効率は間違いなく上がると思うから。
- ・ 効率良くなるから
- ・ 仕事の効率性が良くなるため。
- ・ 仕事量減りそう
- ・ 時間を自分で調整しやすい
- ・ 時間効率が良くなったため
- ・ 場所を選ばない
- ・ 情報の共有が簡便にできるようになり、それだけでも効率化できている。
- ・ 働き方の自由度があがるため
- ・ 働き方の変化はあると思うから。
- ・ 無駄なく効率のよい働き方ができると思います。
- ・ 無駄なタスク、人員が減るから
- ・ 労働時間が短縮される

**思わない

- ・ ICT 化によるペーパーレスは進んでおらず、むしろ現場への負担は増えていると思うから。
- ・ いつでも仕事ができる環境は、いつでも仕事をしなければいけない環境となり、結果、公私の境界が曖昧になってしまう。その結果、無賃金の労働が生まれてしまうと思います。医療はボランティアでは成り立ちません。
- ・ 家で出来る仕事は少ないのでは

**わからない

- ・ ICT の恩恵が今ひとつ実感できないから。
- ・ ICT 化してもトータルの仕事量が変わらない、もしくは効率化を盾にとって増えてしまうのなら意味がないと思います
- ・ ICT 化により減る仕事量は業務時間短縮につながると思われる量としては少なそうに思うから
- ・ やって見ないとわからないから
- ・ 患者数が減るわけではないし、医療安全の観点から、やらなくてははいけないことは、年々増えるため
- ・ 職場に新たな ICT の導入がない
- ・ 大幅に業務分担ができるのであれば、働き方改革にも貢献すると思う。

臨床研修医・男性

**思う

- ・ 時間の使い方が変わるから
- ・ 時間削減につながる場面が多いため。
- ・ 時間短縮できる部分があるから
- ・ 自宅で受講すれば勤務時間に当たらない
- ・ 手書きの紹介状を電子化したり、それだけで、書き手と読み手の時間が短縮されます。
- ・ 通信技術を使うことで人の移動の手間等が省け、お互いに時間の有効活用ができる。
- ・ 無駄な時間の削減

**思わない

- ・ ICT 化が進んでもタスクシフトが進まない限り医師の負担は減らない。
- ・ 患者が減らない

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

臨床研修医・女性

**思う

- ・ 育児休暇など取りやすくなるため
- ・ 家で過ごせる時間が増えるため
- ・ 会議などリモートで参加できれば家での時間が増える。
- ・ 講演会などでの移動時間が減るから。
- ・ 時間が効率的に使えるから
- ・ 自由な時間が増えるため

**わからない

- ・ 勉強不足なのでよくわからない

その他の医師・男性

**思う

- ・ あまりに医療機関のデジタル化が遅れているため。
- ・ 移動の時間が短縮されることで労働時間は短縮しやすくなる。
- ・ 業務が効率的になる。
- ・ 業務効率が ICT 化によって進めば業務量が減る可能性があり、業務時間の短縮にマッチすることが予想される。
- ・ 空いた時間を効率よく使用できるため
- ・ 効率的に業務をすすめることができると思う。ただし、空いた時間でさらに研究や診療をするよう強要されることが目に見えている。
- ・ 時間が増えるため
- ・ 自宅からの参加が可能となったため
- ・ 自宅で作業が可能になるから
- ・ 無駄を省けるため。ただその影響力は微小。
- ・ 有効に時間を使う

**思わない

- ・ ICT 化もそれほど進んでいないから。
- ・ そもそも ICT 化は進まない
- ・ 収入減少で医師のモチベーションが下がる
- ・ 他の人の負担が増える

**わからない

- ・ ICT を使わない仕事結構ある
- ・ ICT 化が推進されることと、働き方改革が進むこととは、必ずしも関連しない。
- ・ ICT 化と働き方改革は異質のものなので、case-by-case と思う
- ・ ICT 化の推進により業務の効率化が進んだとしても、業務の肥大化が上まわれれば意味がないから。

その他の医師・女性

**思う

- ・ 移動時間がなくてよいから
- ・ 遠隔診療など、通勤を要さないものも含め、多様な勤務形態が生まれうるため。
- ・ 何でもオンラインにするだけでなく、適切な ICT 化がすすめば時間短縮にはなると思う。
- ・ 現場にいないことができなくても動向を把握することができるため時間削減や効率化につながると思う
- ・ 効率のよい仕事ができれば多少は進む可能性はあるが、劇的な変化は難しいのではないかと、思っている。
- ・ 効率化できる所はあると思うから。
- ・ 効率的に自由な時間が増えそうだから
- ・ 進ませるために推進していると思うから
- ・ 直接、診療・教育・研究に関係のない仕事や余分な隙間時間が減り、その人が望まない業務や余暇の時間を短縮出来ると思

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

うから。

- ・働き方改革を計測するための勤怠管理に ICT 化は必要。
- ・便利にはなる

**思わない

- ・関係ないと思います。

**わからない

- ・それだけで働き方は変わらない気がするから
- ・関係性が不明
- ・実感できていない

その他の医師・回答しない

**思わない

- ・オンラインに登録したり、e-learning の多用など重要と思われない時間が多くなっている。書面による業務をしていた人たちは軽減されたであろうが、全て End User が消耗する時間と手間が多すぎるため。

その他(特任研究員など)・男性

**思う

- ・業務が効率化されるから
- ・使い方次第。
- ・余裕が出来る

**思わない

- ・ICT 化に関連する新たな業務が増え、結局は業務量は変わらないのではないかと思う。

**わからない

- ・結局、減った分、ほかの雑事が増えて、改善の実感には至らない気がする。

その他(特任研究員など)・女性

**思う

- ・業務効率化が進むため
- ・効率的かつ短時間で業務が可能になる部分があるため。
- ・時間管理ができる
- ・時間短縮になる
- ・進まない改革ではないと思うから
- ・進む、というのが改善と同義だとは思わないが、変化はするだろうと思う。
- ・多くの無駄な部分が省けるため。

**思わない

- ・個々人の意識によるものと考えるため
- ・今まで変化を伴った実感がない為。
- ・変わらない

**わからない

- ・ICT 化がどのように進むかわからないので
- ・わからないとしか言えない
- ・余裕をもった仕事配分ができない限り、環境を整えたとしても、精一杯になってしまうと思う

その他(特任研究員など)・回答しない

**思わない

46. ICT 化の影響により、働き方改革は推進すると思いますか【記述】

- ・ 男女比やジェンダーバランスの課題点は現状のまま ICT 化が進む気がする